

受賞先のご紹介

1. 産業技術部門 1席

産業技術賞

- ワークショップ・テラ 代表 そらはし空橋 ともひろ智裕 (岩見沢市)

障がい者用の福祉関連装飾品の製作

平成9年、福祉関連の装備品製作会社(有)たく工房に就職し技術を習得した。同社が平成20年に閉鎖となり、顧客の後押しを受け、同時に個人創業した。取引先の大半は、全道一円の養護学校の障がいのある生徒(0才~18才)たちで、既製品の車椅子・姿勢保持椅子を必要とする子供を対象としています。姿勢保持椅子とは自力で座ることが難しい子供が適切に座るための機能が付いた椅子で、子供が食事や遊び、学習の可能性を広げる効果があります。担当医師の確認の下で、各パーツを調整しながら作製しており機能性・安全性が高い商品を提供している。

2. 文化部門 6席

文化賞

- 北村絵画同好会 代表 ながい永井 しげる茂 (岩見沢市)

絵画による芸術文化の伝承

絵画に興味を持つ者が集まり、絵画の技術を研鑽しながら会員の交流を図り、発表を通じて市民文化の向上に努めることを目的に設立された。平成15年北村教育委員会が開いた絵画講座の受講生一部が中心となり、平成17年11月に結成された。創設以来、故山口大先生の指導の下で、絵画の技術を研鑽し、近年は多くの会員が道展に入選する等、技術を磨いている。全員が農業者のため、活動は11月から3月の冬期間に限定されているが、研鑽に励んでいる。岩見沢市の文化祭、文化連盟芸術展等に発表して、市民から喜ばれている。また、道展の出品作を北村支所に展示する等、地域へ貢献している。

文化奨励賞 2 席

- ゆうびかい 夕美会 代表 げんとう 源藤 せえこ 世栄子 (夕張市)

着物文化の継承と普及

昭和 55 年、京都着物学院夕張分校として発足し、着物について学んでいる団体です。着付けの稽古やいろいろな着物について学んでいる中で、もっとたくさんの人に知ってもらいたいと考え、最初に夕張映画祭の盛り上げ隊として参加し、さん新たなアイデアで着物ショーを開催したり、ゲストの着付けの手伝い等を行い、高い評価を得ました。毎年、成人式での着物の着直し、中国留学生及び中学校での浴衣着付け指導等の活動を実施する等、町内、町外及び外国人にも着物文化の伝承と普及に努め、43 年に亘る活動および地域への貢献は大きい。

- みやびかい 雅会 代表 さとう 佐藤 とみこ 登美子 (岩見沢市)

着物文化の継承と普及

昭和 45 年、小林豊子着物学院の受講生の一部で、和の文化を一人でも多くの方に伝えることを目的に設立され、活動歴は 52 年となっております。昭和 57 年に岩見沢文化連盟に加入、市民文化祭に参加している。舞台では、着付け舞、十二単の着装を披露し、展示では古い着物を再利用したバックや敷物等を提供し、市民から好評を得ている。52 年に亘り、日本の伝統文化である着物の着付け等について伝承と普及に努め、地域への貢献は大きい。

地域文化貢献賞 3 席

- くりやましぎんあいこうかい 栗山詩吟愛好会 会長 いちかわ 市川 こういち 耕一 (栗山町)

詩吟文化の伝承

平成 21 年 5 月、吟詠を愛好し研鑽習得、会員相互の親睦を図り併せて人格の高揚に努め社会に貢献することを目的に設立されました。令和 2～3 年はコロナ禍で自粛していましたが、老人保健施設、養護老人ホームでの慰問、平成 26 年から戦没者慰霊祭での献吟、毎年くりやま芸能祭への参加等、広く活動しております。日本の伝統文化である詩吟を、町民の芸能祭、慰問活動等を通し、文化の振興に寄与しております。

- 伝えよう郷土の文化「月形音頭」をおどる会 会長 土井 町子 (月形町)

郷土の文化「月形音頭」の伝承

昭和 35 年 9 月 2 日、月形町開基 80 周年を機に月形音頭・月形小唄が制定されましたが、月形音頭の伝承が途絶えかけたため、歴史的文化である月形音頭を町民と踊り、後世に伝承することを目的に平成 31 年 4 月に設立されました。月形小学校の運動会、月形町文化祭への参加、地域のふれあいサロン及び老人クラブ等の慰問をしていましたが、令和 2 年以降はコロナ禍もあって自粛しておりました。令和 3 年秋からは感染対策の下で、町民文化祭への参加等を機に徐々に活動を再開し、今年 4 月には「平和を願う～おどる会」を開催し、7 月には月形高校の学校祭での発表を行いました。伝統芸能の伝達・継承のため、町と文化への深い愛で地域に貢献している。

- 森井 清子 (由仁町)

菊文化の伝承

平成 18 年、由仁町在住の吉田美智江さんの指導の下、町花である菊の栽培に取り組みを開始。その後、数名の有志と菊花鑑賞知識の向上を図るために、由仁町文化祭に初めて出展し、以降は、毎年空知信用金庫由仁支店、公共施設、介護施設などに出演しております。容易でない菊の栽培育成に長年苦勞しながら地道に取り組み、平成 29 年からは一人で 40 鉢の菊花を栽培しております。毎年の由仁町文化祭町内主要施設への出展、展示を継続し、鑑賞する人々の心の豊かさの醸成とともに地域文化の振興に大きく貢献しています。

3. 地域振興部門 3 席

ふるさとづくり大賞

- みる・とーぶプロジェクト実行委員会 会長 来嶋 路子 (岩見沢市)

岩見沢市の東部丘陵地域の振興を図り、各種事業を通じた地域貢献

東部丘陵地域は過疎化が進んでいるが、この 5~6 年は個性的な移住者が集まりだし、こうした仲間と各種事業を通じて、情報発信及び地域振興に努めている。2016 年「みる・とーぶプロジェクト実行委員会」を設立、活動の中心は、移住者でもものづくりをする人々が主体となっている。2019 年 3 月、美流渡小・中学校の閉校により、校舎の利活用について勉強会を実施し

たところ、2021年岩見沢市の要請を受け、令和3年以降試験活用を行い、ワークショップ、「みる・とーぶ展」及び絵本作家MAYAMAXX(マヤ・マックス)の新作を飾る「みんなとMAYAMAXX展」等を開催し地域振興に努めている。

ふるさとづくり貢献賞2席

- ゆにっ子見守り隊 代表 ^{おおたに}大谷 ^{けんじ}健治 (由仁町)

由仁町内の小・中学校の児童・生徒の交通安全、防犯活動による地域貢献

平成18年8月17日、児童・生徒の通学時に事件・事故が大きな問題になっている状況を踏まえ、児童・生徒が安心して暮らすため、保護者や地域住民、関係団体・機関が連携し、安全安心できる環境を築いていくことを目的に設立され、活動を開始した。学校の登校日の朝は、通学路の横断地点5カ所に7人を配置、揃いのジャンパー等で交通安全誘導を実施(年208日間)。子供達への声掛け、集団下校訓練への参加及び学期毎に研修・懇親会を開き、課題の整理や関連団体への提言を行なって、不審者情報の共有も図っている。由仁町ボランティア活動連絡会に所属、同連絡会の行事には積極的に参加。また、情報共有のため、会報を発行(年10回程度)する等、地域貢献している。

- チーム夢(ときわ) 代表 ^{よしだ}吉田 ^{れいこ}礼子 (栗山町)

栗山駅前ロータリー及び周辺の花壇作りを通じた地域貢献

栗山駅前のロータリーや敷地には花壇はなく、芝生が生えているだけの状態を見て、花壇の植栽活動を有志と発起、栗山町の許可を得て平成26年5月「チーム夢(ときわ)」を設立し活動を開始した。平成26年5月から、毎年5月に会員、各種団体及び地元中学生らと協力して、1万本の花苗(品種は5~10種)を植栽している。植栽後は、メンバー中心で定期的な水やり、雑草駆除、花苗の入替えを行なって景観維持に努めている。毎年5~10月の期間は、栗山駅周辺は景観を華やかに保ち、町内外の人々に「癒し」を与え、栗山町のイメージアップを図る等、地域の美化に大きく貢献している。

以上